

としょかん南アルプス

南アルプス市立図書館通信 No.34 2016年12月1日発行 <http://m-alps-lib.e-tosho.jp/>

あっという間に今年も師走。南アルプス市立中央図書館もリニューアルオープンしてから2か月が過ぎました。月曜日開館も好評です。

図書館はこれからも「もっと便利に!」「もっと気軽に!」みなさまにご利用いただけるよう努めていきます。

南アルプス市立図書館 リニューアルオープン記念講演会

「私の仕事から」

作家 林真理子さん

市立図書館では、11月26日(土)に作家の林真理子さんをお招きし講演会を開催しました。

この講演会は10月から行われていたリニューアルオープン記念行事の締めくくりとなるもので、「ぜひ林さんをゲストに」とのみなさまの声にお応えしたものです。

林さんは「私の仕事から」をテーマに、自身の人生観や仕事スタイル、さらに著書にまつわるエピソードなどを中心に講演されました。

会場となった櫛形生涯学習センターあやめホールでは、約300名のみなさまが熱心に聞き入っていました。

講演前には、リニューアルして明るくなった図書館内をご覧いただき、メイン展示コーナー「林真理子作品特集」の前で記念撮影も行いました。

林さんは「本の旅人」に連載中の小説『西郷どん!』が2018年NHK大河ドラマの原作に決定しており、今後ますますの活躍が期待されます。

<講演会の様子>



<図書館メイン展示 林真理子特集の前で>



<プロフィール>

昭和29年、山梨県生まれ。
コピーライターを経て、『ルンルンを買っておうちに帰ろう』を出版。処女小説『星影のステラ』が直木賞候補に選出されたことを機に、執筆業に専念。『最終便に間に合えば』『京都まで』で直木賞を受賞。『白蓮れんれん』で柴田錬三郎賞を受賞。『みんなの秘密』で吉川英治文学賞を受賞。
平成12年、直木賞選考委員に就任。他、数々の文学賞の選考委員を務める。
平成23年、レオジン・ドヌール勲章シュヴァリエ受賞。

図書館からの風景

NHK甲府放送局 廣瀬 雄大 アナウンサー

廣瀬アナウンサーは、旧櫛形町出身です。2009年にNHKに入局し、現在は、「まるごと山梨」のリポーターや「かいラジ」の担当として活躍されています。

11月19日にあやめホールで行われた「秋のひとつ朗読会」にお招きし、第2部の「ふるさと人物室オープン記念朗読」として、内藤多伸博士の自伝「建築と人生」を朗読していただきました。廣瀬アナウンサーのすばらしい朗読に、来場者全員が魅了されました。

朗読会終了後に、おはなしを伺いました。



<秋のひとつ朗読会にて>

櫛形中学校出身ですので、中学・高校時代、受験勉強のために櫛形図書館をよく利用していました。勉強に疲れると図書館の外に出て、富士山や滝沢川を眺め、ほっと一息ついたことを思い出します。その自然豊かな風景が、私のふるさとを思う「こころの原点」となっています。

また、この時代はたくさんの本を読みました。太宰治、吉本ばなな、藤沢周平、アガサ・クリスティーなど、青春時代に読んだ本の大半は櫛形図書館で借りたものです。特に太宰治の作品は、甲府一高の放送部時代に番組作りをしたこともあり、全作品を読破しました。

自身の将来について考えたときには、「なるにはBOOKS」という仕事を紹介するシリーズ本の『アナウンサーになるには』を読んだこともあります。

今思うと、多感な青春時代にたくさんの本を読んだことが、アナウンサーという言葉を大切に仕事する基礎になっているのではないかと思います。

現在は甲府に住んでいますが、実家の両親に子育てを手伝ってもらっているので、南アルプス市によく帰っています。今日の朗読会にも中学校時代の恩師が訪ねてくれ、なつかしい話をする事ができました。客席には顔見知りの方も多く、いつもより緊張してしまいました。

仕事では防災関係の番組を担当し、防災士の資格も持っています。今回の朗読会で、日本の「耐震構造の父」と呼ばれる南アルプス市出身の内藤多伸博士の生涯を朗読できたことは、これから防災についての取材していく上で、とてもよい機会になりました。この体験を仕事に活かしていきたいと思っています。

これからも、ふるさとのみなさまの期待に応えられるようがんばります。

